

# 令和3年度 出雲サンホーム 事業計画

一人ひとりの人権を尊重し、誰もが地域の中で自分らしく、共に生きる社会の実現を目指します。

## 1. サービス提供

(1) その人らしい暮らしを応援します。

- ・ご利用者の人権を尊重し、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供します。
- ・個々の想いや出来る力に着目した個別支援計画を策定し、実施します。
- ・新しい生活様式のもとで、新たな支援方法を模索し、ご利用者が充実した生活が送られるよう支援します。
- ・ご利用者の選択の場が広がるよう、様々な情報を提供し、自らが望まれる暮らしの実現に向け、チャレンジすることを支援します。
- ・ご家族との連携を深め、共にご利用者を支えます。

(2) 選ばれるサービスを目指します。

- ・地域のニーズ・課題について、情報収集を行ないます。
- ・幅広い世代からご利用いただけるサービスを提供します。
- ・二世帯・三世帯利用を推進します。

(3) 安全で信頼のおけるサービスに取り組めます。

- ・職員の確保と質の向上により安定したサービスを提供するとともに、ご利用者の数は、目標数(6020)を目指し、入所施設においては利用率95%を確保します。
- ・新型コロナウイルス感染症の情報収集・予防に努め、サービスが安定的・継続的に提供出来るよう努めます。また、仮に一時中断した場合においても、早期の業務の再開に努めます。
- ・福祉機器等を効果的に活用し、抱え上げない介護を推進します。
- ・マニュアルを活用し、事故の未然回避を図り、適正で質の高い安心出来るサービスを提供します。
- ・事故等が発生した場合は、速やかに対応し再発防止に努めます。
- ・法令や職員倫理規程等を遵守し、信頼されるサービスを提供します。
- ・個人情報については、利用目的を明確にし、ご利用者・ご家族の理解を得ながら慎重に取り扱い秘密を守ります。
- ・事業所での自己評価や外部評価、また、ご利用者やご家族の意見等を真摯に受け止めサービスの向上に努めます。

## 2. 人材育成

(1) 職員の資質向上を目指します。

- ・個々の能力が発揮出来るよう、自己認識(内的・外的)に努めます。
- ・職員一人ひとりが、仲間を思いやり、チーム力を高めます。

- ・職員の指導・育成は、エルダー制の実施やマニュアルに基づいて行ないます。
- ・階層別の役割とその求められる能力を理解し、自己の向上に努めます。
- ・ご利用者との関わりや地域との交流を通し、心豊かな人材となるよう努めます。

### 3. 地域貢献

- (1) 地域福祉の拠点を目指します。
  - ・地域と積極的に関わり連携を深め、施設の機能と強みを活かして、求められるニーズに柔軟に対応します。
  - ・地域生活支援拠点等の機能を担う事業所として、その機能を果たせるよう体制を整えます。
  - ・地域の団体と協働し、地域の課題に取り組みます。
  - ・交流ホームを地域の方に活用していただけるよう、積極的に取り組みます。
  - ・施設の取り組みや魅力を発信し、また福祉の幅広い情報を提供します。

### 4. 食生活

- (1) 楽しみのある食事を提供します。
  - ・ご利用者の声に応え、「楽しさ」「おいしさ」が感じられる食事提供に努めます。
  - ・旬の食材、季節の行事食を取り入れ、「季節を感じる食事」を提供します。
- (2) 一人ひとりの健康を支えます。
  - ・ご利用者と共に食生活と健康について考え、ご家族と連携をとりながら、一人ひとりのニーズと栄養・健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを行ないます。
  - ・栄養ケア計画書に基づいて食生活を支援し、健康の維持・増進につなげます。
  - ・在宅ご利用者の食事と健康について共に考えていきます。
- (3) 食の安全に取り組みます。
  - ・ご利用者と共に安全と衛生に心がけ、食中毒、感染症対策に努めます。

### 1. 医療

- (1) ご利用者の健康維持を推進します。
  - ・日々の健康状態を把握し、疾病の予防・早期発見に努め、ご利用者が健康で過ごせるよう支援します。
  - ・全身的な健康維持の為に、口腔ケアを徹底します。
  - ・入所ご利用者へ健康診断(血液検査・胸部レントゲン検査等)を実施します。
  - ・体調不良時、緊急時には迅速な対応を行ないます
  - ・ご家族、嘱託医や他の医療機関との連携を密にし、適切な処置・対応を行ないます。
- (2) 感染症対策に努めます。
  - ・感染症の流行情報を収集・伝達し、感染予防に取り組み、未然回避に努めます。
  - ・感染症発生時には、リスクマネジメント委員会と共に発生状況を把握し、マニュアルに沿って感染

の拡大防止に努めます。

(3) 安全衛生に努めます。

- ・安全で快適な職場環境を整えます。
- ・職員の健康診断を行ない生活習慣病の予防、産業医と連携しメンタルヘルスケアに努めます。
- ・福祉機器等を導入・活用し、職員の腰痛予防に努めます。

## 2. リハビリテーション

(1) 一人ひとりの力を日々の生活につなげます。

- ・先の暮らしを見据えながら、個々のニーズと状況に応じた計画書に基づいてリハビリを実施します。
- ・他職種と情報を共有し、日々の生活の中で持っている力を活かせるよう支援します。
- ・「出来る」を見つけ「出来た」を共感することで、新たな一歩が踏み出せ、暮らしの場が広がるよう支援します。

(2) 福祉用具の活用や生活環境の改善を行ない、生活の質の向上を図ります。

- ・心身機能の変化や使用環境に適した福祉用具を活用出来るよう、関係諸機関と連携を取りながら相談対応や情報提供を行ないます。
- ・ご利用者と共に生活環境について考え、自立の可能性が広がるよう支援します。

## 3. 住環境

(1) 快適な住環境の維持・改善に努めます。

- ・清潔で快適に過ごせるよう、ご利用者と共に生活環境を整えます。
- ・建物・設備・機器の整備、維持管理に努め、安全で快適な住環境を提供します。
- ・業務の効率化に努めます。

(2) おもてなしの心を大切にします。

- ・明るく思いやりのある対応に心がけ、心地良い空間を作ります。

## 4. 防災・防犯

(1) 災害及び緊急事態に備え、防災管理体制を整えます。

- ・生命の安全を確保する為の環境をご利用者と共に整えます。
- ・消防計画、地震防災管理計画、洪水時の避難確保計画、事業継続計画に基づき、法人内施設や地域との連携を図り緊急時の管理体制を整えます。
- ・災害時における必要な備蓄品を確保し、緊急時に備えます。

(2) 定期的な防災・防犯訓練を実施します。

- ・地域及び関係諸機関と連携を図り、訓練の実施にあたっては、初動対応から一連の流れを検証し実践力を高めます。

## 5. 相談支援事業(特定相談支援・障害児相談支援・一般相談支援)

### (1) 一人ひとりの想いを尊重し、暮らしを支えます。

- ・年齢や障害種別、住まいの場等に関わりなく、その人らしくいきいきとした暮らしが実現出来るようケアマネジメントします。
- ・サービス等利用計画は、ご利用者やご家族の意見を伺いながら、各関係機関との連携のもと情報の共有を図り、適切な福祉サービスの利用と社会参加や自律につながるよう作成し支援します。
- ・施設や病院からの地域移行は、自分で選んだ住まいの場での生活が実現出来るよう、体験利用や体験宿泊をするなど、新たな一歩を応援します。
- ・緊急事態に対応出来るよう体制を整え、地域での生活が継続出来るよう支援します。
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行は、ご利用者やご家族の想いを大切にしながら進めます。
- ・情報発信の窓口として、ニーズに即した情報の提供を行ないます。

### (2) 必要とされるサービスを「かたち」にします。

- ・地域のニーズや情報を基に、地域の方や行政、各関係機関との連携を図りながら地域の社会資源の開発・改善に努めます。
- ・地域の多様なニーズに耳を傾け、必要とされるサービスを出雲サンホームで展開出来るよう共に努めます。

### (3) サービスの改善に取り組みます。

- ・事業所での自己評価や外部評価、またご利用者やご家族の意見等を真摯に受け止め、サービスの向上に努めます。

# 出雲サンホーム 事業報告

## 1. 主要事項

令和3年度出雲サンホームの利用状況は次のとおりとなった。(単位%、以下同じ)

- ・施設入所支援事業(定員60)の利用率: 98.0(前年度99.3)
- ・生活介護事業(定員60)の利用率: 103.2(前年度102.5)
- ・短期入所・共生型短期入所事業(定員8)の利用率: 33.7(前年度26.2)

施設入所支援事業は入所率100%の状態での新年度をスタートした。年度内に3名の退所者があったが、比較的早い段階で新規の入所者を迎え年間を通して95%以上の利用率を達成することが出来た。ご利用者の高齢化・重度化が進んでいる影響の為に延べ入院者数は前年度よりも増加している。今後さらに高齢化・重度化が進んで行くと思われるので、入院などを見据えながら受け入れも予測し進めていきたい。生活介護事業はコロナ禍の中100%を超え前年度よりも利用率が更に向上した。引き続き100%を維持出来るよう新規利用者の受け入れを進めていきたい。また、短期入所事業(共生型短期入所事業含む)においては、コロナ禍の中でも新規利用や定期利用での受け入れを継続して行ない利用率も向上した。また、介護者不在の為に緊急利用や長期利用の受け入れも行なった。今後も地域生活支援拠点を担う事業所として地域の中で役割が発揮出来るように取り組んでいきたい。

地域福祉サービスセンターソレイユの利用状況は次のとおりとなった。

- ・生活介護・共生型通所介護事業(定員20)の利用率: 78.8(前年度67.6)
- ・自立訓練事業(定員6): 15.8(前年度16.5)
- ・放課後等デイサービス事業(定員5): 54.9(前年度54.9)

生活介護事業は新規利用者3名に対し、終了者は0名と共生型通所介護事業への移行もあり利用維持に繋がっている。通所サービスにおいては新型コロナウイルス感染の感染状況が大きく影響する中、利用増に向けた動きも一定の成果があり前年度より利用率は向上した。自立訓練事業、放課後等デイサービスにおいても、利用者獲得に向け事業所の機能や魅力を関係機関に発信し、新規利用の獲得に向け動いていきたい。

令和3年4月からの報酬改定は、障害福祉サービスにあっては、+0.56%の改定率となった。この改定は、障害の重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援、質の高い相談支援を提供するための報酬体系の見直しが図られ、施設においても生活介護事業で常勤看護配置加算と短期入所事業で地域生活支援拠点等加算を新たに取得した。

施設整備としては、福祉車両1台、パソコン2台、スチームコンベクション1台、コール設備の更新を行なった。コールはスマホと連動し活用することでより業務の軽減が図れるようになった。今後ご利用者の快適性と職員の業務の省力化や建設より40年を迎える建物の老朽化への対応など施設設備を整備していきたい。

地域活動では、新型コロナウイルス感染症への対応が続く中、感染対策を取りながら清掃ボラン

ティアの受け入れや近隣小学生を対象としたこども福祉教室、高校への介護教室を実施し施設の機能や強みを再確認することが出来た。今後も感染対策を取りながら地域との繋がりを意識し受け入れや地域へ出向く機会を大切にしていきたい。

## 2. 評価・反省

### 1) サービス提供

#### 【出雲サンホーム】

##### 生活介護事業・施設入所支援事業

新型コロナウイルス感染状況に合わせ、外出・外泊・面会、行事や活動等を検討し対応を行なった。万が一の状況に備え、実際に感染が確認された場合のシミュレーションの研修をし、職員間で対応等の確認を行なった。ご利用者にも、可能な方にはマスクの着用や黙食の協力をお願いし、密を避けて少人数での活動の実施や個別の対応など、状況に応じて工夫しながら支援を行なった。

そのような状況においても、ご利用者の人権を尊重し、個々の思いや出来る力に着目した個別支援計画を作成、計画に基づいたサービス提供に努めた。また、よりご利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、今出来る中での情報提供をし、選択肢の中から選んで頂くことに努め、自己選択の場が広がるよう支援した。ご利用者一人ひとりが望まれる生活が実現出来るよう、多職種が連携しご家族の協力も得ながら支援を行なった。

地域の方との積極的な交流は少なかったが、感染状況をみながらの面会や外出等実施し、地域との関わりを持つことで、ご利用者が地域住民の一員として、地域の中で充実した生活が送られるよう支援を行なった。

ご家族の皆様には、面会制限に対してもご協力を頂いた。今年度もサン SUN まつりが中止となり、代わって実施した納涼祭では、昨年度に続き抽選の景品の協賛を頂き、ご利用者が楽しい時間を過ごされた。また、家族会研修会として、三瓶山・石見ワイナリーや吉栗の郷への外出を企画し、ご利用者とご家族が一緒に楽しめる機会を持つことが出来た。

安心して信頼のおけるサービス提供に向け、ご利用者に協力して頂きながら、職員に対して福祉用具やリフター使用についての指導を行ない、抱え上げない介護の実践に向け取り組んだ。また、「倫理規程に基づく行動指針」の読み合わせを行ない、職員一人ひとりが権利擁護の意識を高め統一した支援が行えるよう努めた。

今後も引き続き感染状況をみながらの対応になると思われる。感染症対策はしっかりと行ないながら、今出来る事を模索し、ご利用者一人ひとりの想いを大切にしながら、望まれる暮らしの実現に向け、より良いサービス提供に努めていきたい。そして、地域とのつながりをより大切にし、求められるニーズに対応しながら、地域の福祉拠点を目指していきたい。

## 短期入所事業・日中一時支援事業

新型コロナウイルスの影響もある中、継続した定期の利用や希望に合わせて短期入所、日中一時を調整し受け入れることが出来た。緊急時の利用依頼もお断りすることなく受け入れを行なった。共生型短期入所事業でも、慣れた環境で継続して利用が出来ると喜ばれ、定期的にご利用して頂いている。

支援会議では関係機関と情報共有し、個々の身体状況や障害特性に合わせた支援方法を把握し、ケアや支援の改善、見直しを行ないながら対応出来た。事業所での様子もご家族に書面や口頭でお伝えすることでより安心してご利用して頂けるように努めた。今後も地域の方が安心して在宅で暮らせる様、個々のニーズを汲み取りより良いサービス提供に努めていきたい。

## 【地域福祉サービスセンターソレイユ】

### 生活介護事業・自立訓練事業・共生型通所介護事業

ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、個々の思いや希望に添って作成した個別支援計画を基に、ご家族や関係機関との連携を図りながらサービス提供に努めた。実際の支援については、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながら、季節の行事やご利用者から発信された創作やスポーツ系の活動、野菜作りやフラワーアレンジメント等さまざまな活動を実施した。また、感染状況を見ながら吉栗の郷や立久恵峡への紅葉外出の機会を設け、楽しみのある日常が過ごせるよう努めた。これまで行ってきた大判焼きの作成や販売、喫茶等の生産活動に於いては、コロナ禍にて実施することは難しかったが、次年度はご利用者とともに活動方法を模索し再開に向け取り組んでいきたい。

機能訓練では、身体機能を維持し在宅生活の継続や、新たな目標に向けたチャレンジなど、個々のニーズや状況に応じた個別支援計画を作成し、リハビリの専門職や関係機関と情報交換し連携しながら支援を行なった。

共生型通所介護事業は、ご家族や居宅介護支援事業所との情報共有を図りながら、個々のニーズに合わせた活動や身体状況に応じて必要な支援に努めた。

今後も、ご利用者が住み慣れた地域の中で望まれる暮らしが継続出来るよう個々の思いやニーズを大切に、事業所の特色や強みを活かしながら、より良いサービス提供に努めていきたい。

## 障害児通所支援事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、環境面に工夫を取り入れながら、ご利用児一人ひとりの人権を尊重し、障害特性を理解し、個別支援計画を基に支援を行なった。

昨年度は、放課後等デイご利用児が主体となり、ソレイユご利用者をお客様とし夏祭りを開催した。まつりの看板はもとより、焼きそば（紙創作）、たこ焼き（紙創作）、ビーズアクセサリー等、ご利用児個々の機能を活かし、販売する物は全て一から手作りした。かわいらしいご利用児の販売対応に、ソレイユご利用者も多く来場して下さり、ご利用者との関りも深まり、最初から最後まで熱心に取り組んだ児童にも、達成感が得られたようだった。

今後も、ご家族やそれぞれの関係機関、相談支援専門員と情報交換や連携を密に図る事で、統一した支援やケアを行ない、ご利用児の持つ可能性や、個々の成長に応じた力が伸ばせるよう支援を行なうと共に、地域の中で安心して利用して頂ける環境や支援の工夫を行なっていきたい。

## 2) 人材育成

質の高いサービス提供が行えるよう、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、所外研修はオンライン研修等を含め参加可能な研修に参加し、専門職として必要な知識や技術を学び資質向上に努めた。

新職員への育成は、エルダー制による指導を行ない、日々の思いや悩みを相談し易い環境作りや意見交換会を実施した。また、現任職員に対しても意見交換を行ない、互いの思いや人材育成に向けた課題を共有し解決に向け取り組んだ。

今後も、職員一人ひとりが自己研鑽に努め、職員同士が互いを思いやりチーム力を高めながら、より質の高いサービス提供に取り組んでいきたい。

## 3) 地域貢献

新型コロナウイルス感染症拡大の状況に対応し、感染対策を行なった上で近隣の高校生向け、小学生向けの介護教室を実施し、車椅子の操作の説明や乗車体験等を行なうことが出来た。小学生に向けた福祉教室では近くの商業施設に車椅子で出掛け、バリアフリーへの理解と関心を深めてもらうことが出来た。地域との交流やボランティアの受け入れは出来なかったが、施設の強みを活かし、地域生活で役立つ情報をホームページで発信を行なった。

今後も感染状況をみながら、適切な感染予防対策を行なった上で介護教室を実施し、感染が収束しない状況下であっても地域との交流、ボランティアの受け入れ方法などを模索する事で、地域との繋がりを大切にしながら、地域の団体と共同し、地域の課題に取り組んでいきたい。

## 4) 食生活

ご利用者の嗜好や要望を反映し、旬の食材を用いた季節の料理や行事食、馴染みの味の提供に努めた。また、より安全に配慮した食べやすい形態での対応や、主菜のソフト食に取り組み、提供回数を増やすことが出来た。

引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、盛り合わせ料理や鍋からの取り分け、小グループでの食事は楽しみにされてはいるが中止とし、食堂の席も対面や密状態を避けるように配慮した。代わりの楽しみとして、介護職員とも協力し、カレーやおでんなど盛り付けながらの配膳やお好み焼き、餃子などホットプレートで直前に焼いたり、保温しながら提供することで匂いも届け、「温かく美味しかった」と満足の笑顔が見られた。

一人ひとりの健康に繋がる食生活支援としては、高齢化・重度化による咀嚼嚥下力の低下がすすんでいるため、新型コロナウイルス感染症対策に応じた口腔体操の実施や食形態、とろみ量、姿勢や介



助方法などを継続して多職種で検討、迅速な対応に努めた。また栄養補助食品も適宜活用した。その結果食事摂取量の増加に伴い体調が回復し、元気に過ごされるなど効果が表れている。間食についても個々に適した内容について、ご本人の希望も尊重にしながら、繰り返しアドバイスを行ない、健康の維持に努めた。個人購入品が多い方は食生活の偏りや体調が崩れる傾向にあるため、個々に適した食生活への継続した支援が課題である。

また、災害時等の緊急事態に備え、備蓄食品を使った食事提供の訓練を2回実施した。

今後もご利用者が楽しまれるような食事提供や、健康に過ごされるように多職種で連携し、より良い食生活支援へつなげたい。

## 5) 医療

ご利用者の健康維持のため、食事前の口腔体操やブラッシング指導を行なうなど、口腔ケアの徹底に努めた。また、年に2回の血液検査や年に1回のレントゲン検査の実施、日々のバイタル、食事、排泄等を把握し、嘱託医や多職種間で情報共有を図りながら体調管理と体調不良時の早期発見、早期対応に努めた。

新型コロナウイルス等の感染症対策では、リスクマネジメント委員会と協力しながら、ご利用者・職員の検温、室温・湿度の管理、換気、手洗い・うがい・消毒を徹底した。また、インフルエンザや新型コロナウイルスのワクチン接種についても嘱託医や関係機関と連携し速やかな対応をとることが出来た。

産業医による職員との面談を毎月実施し、メンタルヘルスに努めた。

今後新型コロナウイルスを含めた感染症対策を徹底しながらご利用者が健康で安心して過ごす事が出来るよう多職種・関係機関と連携しながら対応していきたい。

## 6) リハビリテーション

感染症対策に努めながら、ご利用者個々のニーズや身体状況に応じたリハビリを実施し、機能の維持改善に努めた。職員体制の都合もあり、新たに挑戦したいことへの検討や対応は十分には実施できなかったが、コロナ禍で出来ていない外出や外泊時に必要な動作は維持出来るように努めた。

個別のリハビリを実施されていないご利用者に対しても、車椅子乗車時、食事時の姿勢や自助具の活用、ベッド上での体転枕の当て方、移乗の仕方など、残存機能を活かしながら、負担少なく日々過ごせるよう、多職種で検討し対応を行なった。

福祉用具の活用については関係諸機関と連携し、デモ機の試用や課題の検討を共に行ない、個々に適したものの提供に努めた。今後も現状維持に留まらず、各専門性を活かしながら、他職種と連携し支援していきたい。

## 7) 住環境

新型コロナウイルスの感染状況をみながら例年同様ボランティアの方に、車椅子掃除を行なって

頂いた。また、月1回の一斉清掃を継続して実施し、職員が窓拭きや換気扇・フィルター掃除等施設全体の掃除を行ない、ご利用者に日々気持ち良く生活して頂けるよう、清掃や整理整頓に努めた。1日30分間の『クリーンタイム』では居室整理や清掃を行なう中で、防災面からも安全な環境で生活出来るようご利用者と一緒に整理整頓を行なう事で、より防災の意識を持って実施出来た。今後もご利用者と一緒に環境整備出来るよう継続して実施していきたい。

今年度も外部からの施設への出入りや面会の制限があり来訪者と接する機会は少なかったが、美化への意識やおもてなしの心を忘れず対応することが出来た。今後もおもてなしの心を持って対応していけるよう努めたい。

## 8) 防災・防犯

火災避難訓練や不審者対応訓練については、新型コロナウイルス感染症の流行状況を確認しながら都度対応した。不審者対応訓練については出雲警察署の方を講師に講義及びDVDを用いての研修を実施し、12月の夜間想定総合訓練では消防署員の方に施設に来ていただき訓練の様子について講評いただいた。今年度は全国的にも水害が多く、7月には出雲市内においても大雨による被害があり、施設周辺の河川が氾濫間近な状態となり日頃からの備えや訓練の重要性を実感した。11月に行なった自然災害の対応研修でも、水害を想定し避難や動きなどの訓練も必要であるとの助言もあり今後進めていきたい。

今年度より新たに災害や緊急時の職員への連絡手段として防災メールを導入した。今後は定期的にメール配信の訓練を行ない、結果を検証・共有しながら緊急時等に活用出来るよう進めていく。

前年度より立ち上げた防災備蓄の委員会では、災害時の排泄に必要な物品の備蓄を優先的に進めていくことになり、必要数の把握や管理方法について確認しながら進めている。

今後も頻発・多様化する災害や犯罪に日頃から備え、いざという時に対応出来るようご利用者・職員一人ひとりの意識を高め取り組んでいきたい。

## 9) 相談支援事業所

ご利用者からの様々な相談に対し、一人一人の思いに寄り添い、自己実現に向けご本人が本来持っている力を大切にご家族や行政、サービス提供事業所の関係機関と連携を深めながら支援に努めた。

また今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行の状況はあったが、感染対策を徹底しながら効果的なアプローチを行ない、多様化した相談への対応を変わることなく行なうことが出来た。

委託事業所としては出雲市障がい者施策推進協議会に参加し、サービス調整運営会議では防災対策や地域資源の活用について意見交換を行なった。また、専門部会では、出雲市地域生活支援拠点（ささえ愛サポート）の稼働状況を確認し、課題の抽出に携わった。

今後も自立支援協議会や関係機関との連携を深め、相談支援の資質向上を目指し、利用者を主体としたケアマネジメントを継続し、ご利用者のいきいきとした暮らしの実現に向け努めていきたい。